

初夏を感じる暖かさとなった3月2日(日)、本校全日制課程の卒業証書授与式が挙行され、 72名の卒業生が新たな一歩を踏み出しました。

校長式辞 – 未来へ踏み出す君たちへ –

森本校長は式辞の中で、「これまでの努力と仲間との絆が、未来を切り拓く力になる」 と語りました。卒業生の白鳥沙羅さんの一句

これからの希望と不安を寄せ集め あらたな道へ一歩踏み出す を引用し、人生の新たな扉を開く今こそ、自信を持ち一歩を踏み出すときだと激励。 「受け取った思いを今度は社会へ還元してほしい」と未来への使命を託しました。 最後に、敬愛成人式での自身も生徒と肩を組んで歌った「オワリはじまり」の合唱を振 り返り、「今日という終わりは、新たな始まり」と締めくくりました。





〇在校生からの送辞 - 「敬天愛人」を胸に -

「先輩方の築いた伝統を、私たちが受け継ぎます」

在校生代表の石毛君は、卒業生への感謝と敬意を込め、力強く送辞を述べました。 紫苑祭や体育祭での活躍、部活動での支え合い。特に、自身が緊張で声が出せな かったとき、先輩に優しく励まされたことは忘れられない思い出だと語ります。 先輩たちが示してくれた温かさや努力の姿勢は、在校生にとって誇りであり、未来へと 受け継ぐべきもの。その決意とともに、「敬天愛人」の精神を胸に、これからの学校生活 に励むことを誓いました。

○涙に滲む卒業生代表の答辞 - かけがえのない日常こそ宝物 -「うしろを振り向く必要はない。あなたの前にはいくらでも道がある。」

卒業生代表の内田さんは、この言葉を胸に、に三年間を振り返りました。 入学当初の不安はすぐに解消され、クラスメイトとの絆が生まれました。体育祭や紫苑 祭、修学旅行の思い出を語り、「何気ない日常こそが宝物だった」と噛みしめるように 言葉を紡ぎました。進路に悩み、時には友人とぶつかることもありましたが、最後には 支え合えたことへの感謝を述べ、「これまで支えてくれたすべての方々に、心から感謝し ます」と涙ながらに語り、卒業生たちは新たな一歩を踏み出しました。



Photo Filbum ※上段左から卒業証書授与、県知事賞表彰、長戸路賞表彰、卒業記念品目録贈呈



兄通信制課程 第11回 卒業証書授品

3月1日(土)、春の訪れを感じる穏やかな日差しのもと、本校通信制課程の卒業証書授与式が挙行され、



校長: 森本株 語りな ひとりの力で 発表, い出は

41名の卒業生が新たな一歩を踏み出しました。

〇送辞 「感謝と継承の想い」

送辞を読んだのは、生徒会長の平野さん。

「卒業生の皆さんは、どんな困難にも負けず、努力を重ねてきました。その姿は、私たち 在校生にとって大きな励みでした」と、先輩たちへの尊敬と感謝の気持ちを伝えました。 また、「卒業生の皆さんが残してくれた伝統を、私たちも大切に受け継ぎ、来年の卒業 式にはより良い形で後輩たちへつなげていきます」と、決意を新たにしていました。 平野さんは、式後のインタビューで「とても緊張しましたが、噛まずに読めてホッとしまし た」と語り、卒業式の厳かな雰囲気と、先輩たちへの想いの深さが伝わる場面でした。





〇答辞 「成長の証と未来への決意」

答辞を詠んだ正木さんは、「ここでの学びが、自分の人生の転機となりました」と力強 く語りました。入学当初は「授業についていけるのか」「友達ができるのか」と不安ばか りだった日々。しかし、先生方の丁寧な指導や仲間たちの支えによって、学ぶことの楽し さを知り、大きく成長できたことを振り返りました。また、生徒会活動に挑戦したことにも 触れ、「勇気を出して飛び込んだからこそ得られた経験があり、仲間たちと支え合いな がら過ごした時間は、何よりの財産です」と、学校生活の充実ぶりを語りました。最後に、 「先生方や家族、友人に支えられながら迎えた卒業の日。感謝の気持ちを胸に、これか らも努力を続けていきます」と決意を述べました。

Photo Album

※最上段左端;卒業証書授与、最上段2番目; PTA後援会副会長挨拶 同3番目;担任から卒業証書授与



校長式辞 「努力の証としての卒業」

森本校長は、式辞の中で「本校での学びは決して容易な道のりではなかったはず」と 語りながら、スクーリングやレポート、日々の学習に真摯に取り組んできた卒業生一人 ひとりの努力を称えました。また、「人生には決まった正解はない。自分の未来を自分 の力で切り拓いてほしい」と、卒業生に向けて力強いエールを送りました。さらに、文化 発表月間やボランティア活動、スポーツ大会など、卒業生が仲間と共に築いてきた思 い出に触れながら、「ここで学んだ経験が、きっと皆さんの未来につながっていく」と、そ の成長を温かく見守りました。